

2018年度 日本照明賞 審査経緯

1. 日本照明賞審査委員会委員構成

審査委員会は、委員長1名、副委員長1名、幹事2名、各分科会から推薦された委員、本委員会委員長が選定した委員をもって構成されている。

表1 日本照明賞審査委員会委員構成

委員長	大谷 義彦	日本大学
副委員長	中村 芳樹	東京工業大学
幹事	伊藤 大輔	日本工業大学
幹事	垣 鏑 直	名城大学
委員	石井 勝	電気設備学会
委員	斎藤 孝	日本照明委員会
委員	高橋 晋也	日本色彩学会
委員	道浦 正治	日本照明器具工業会
委員	植野 糾	ランドスケープデザイン
委員	岡本 保	木更津工業高等専門学校
委員	落合 勉	M&Oデザイン事務所
委員	加藤 未佳	日本大学
委員	久保 徹周	パナソニック
委員	小林 茂雄	東京都市大学
委員	佐野 武志	サンケン電気
委員	神野 雅文	愛媛大学大学院
委員	中込 育子	イリア
委員	原 直也	関西大学
委員	三木 保弘	国土交通省 国土技術政策総合研究所
委員	山形 幸彦	九州大学

2. 第一回委員会

- ・日時：2018年2月20日（木）13:00～15:00
- ・出席者数：13名
- ・議事内容（応募状況の確認）

2017年9月の理事会で改定された日本照明賞規定が確認された。日本照明賞見直し検討委員会委員長であった久保委員から規程の変更点について改めて説明があった。

今年度の応募は7件であることが報告された。

3. 第二回委員会(プレゼンテーション)

- ・日時：2018年3月5日（月）9:30～14:00
- ・出席者数：13名
- ・審査概要

応募業績7件に対してプレゼンテーションを行ってもらい現地審査候補を選定した。プレゼンテーション（15分）後に質疑応答（10分）を設けた。審査員は各業績に対して現地審査の可否について評価を行った。評価は現地審査必要（2点）、どちらでもない（1点）、現地審査不要（0点）とし、平均1点以下については現地審査に行かないこととした。その結果、7件に対して現地審査候補6件を選定した。

4. 現地審査

6件の候補に対して2018年3月19日から4月3日において現地審査を行った。現地審査は5名から7名の審査員で行った。

5. 第三回委員会（最終審査会）

- ・日時：2018年4月10日（月）13:30～16:00
- ・出席者数：15名
- ・審査概要

各委員が予め提出した審査報告書を基に意見を述べたが、受賞対象として一致できる業績はなかったため無記名投票で決することとした。各審査員が2票の投票権をもち、7件の応募業績に対し投票した。その結果、最多で4票であった。白票（11票）が多くいずれの業績も過半数に達しなかった。投票結果より「世界に誇り得る業績」という審査基準に対して十分なアピールがされていなかったため本年度の受賞対象は該当なしとした。なお、中村副委員長、久保委員は、一部応募者と業務上の利害関係があるため、投票に際し棄権した。